

鋼材の電子商取引
営業マンの顔の見えるサイト
hanwa-steel.com



FOOTWORK TEAMWORK NETWORKを活かして

阪和興業
<http://www.hanwa.co.jp>

◆表筆者が研究過程で創語した学術用語	学術用語「減災」の誕生	研究の進展に伴って新しい学術用語を創語
1. 1985年ごろ	大災害は大都市で発生すると確信し、研究テーマを変える。	
2. 1986年	災害の進化、田園災害、都市化災害、都市型災害、都市災害、災害文化	
3. 1988年	減災、社会の防災力、ソフト防災、ハード防災、災害マネジメント	
4. 1989年	巨大災害	
5. 1995年 (阪神・淡路大震災)	複合災害(compound disaster)、受容リスク、受忍リスク	
6. 1998年	災害と貧困の悪循環	
7. 2003年	スーパー広域災害(東海・東南海・南海地震)、スーパー都市災害(首都直下地震)、減災戦略	
8. 2005年	最悪の被災シナリオ	
9. 2008年	ユビキタス減災社会	
10. 2010年	生存避難	

大阪ブランド

災害多発・激化時代を
先取りするこれらの創
に示された研究成果は、
京都大学防災研究所、阪
神・淡路大震災記念、人
と防災未来センターおよ
び関西大学社会安全学部
における研究活動から生
まれたものであり、最近
では、大阪から災害に関
する学術情報が多く発信
されるようになつてき
た。とくに、政府の災害
関係の対応方針の多く
は、大阪発である。すな
わち、当地が、国内外の
災害情報発信の拠点にな
つてきたということであ
る。

この背景には、大阪
震である上町断層帯地
震、そして大阪湾の高潮
も対象とした新しい二つ
の研究組織が生まれたこ
とでも明らかである。最
近、自治体の長による大
阪への首都機能移転の話
題がメディアによつて紹
介される機会が多いが、
この地が首都直下地震対
策よりも遅れていること
を直視しなければならな
い。情報産業も、大阪湾
沿岸部を「パネルベイ」
などと呼んで集積を誇示
しているが、一部企業を
除いて災害対策はお寒い
限りである。

災害に関する 学術研究の推進

東日本大震災から半年以上経過し、被災市町村では復興まちづくり計画作成が佳境に入つてきた。そこにおける彼らの共通の悩みは、第三次補正予算でどれくらいの国からの支援があるのか、まったく見えないことである。

さて、津波災害からの復興まちづくりでは、筆者が長年にわたりて主張してきた「減災」という哲学が採用されている。去る6月の東日本大震災復興構想会議の提言や8月の政府の基本方針では、「減災」「逃げる」「つなぐ」という3語がキーワードとなつてい

また、7月に公表された国土審議会政策部会防災国土づくり委員会でまとめられた災害に強い国土づくりへの提言においても、副題として「～減災という発想にたつた巨大災害への備え」が採用されている。

「減災」という学术用語を創語した筆者としては、この思想が間違いなく適用されることを願つているが、案外その背景が理解されていないことに危惧を感じる。表は筆者の過去約25年間の研究過程における「減災」の大坂を襲つたジェーン台風をきっかけで発足したことや、阪神・淡路大震災を契機として、将来、大阪を中心に大きな被害が予想される南海地震や

災害に関する 学術研究の推進

これからわかるように、災害研究の過程で、「減災」が必然的に生まれたものであり、筆者がした「複合災害」が、地殻変動、津波、原子力災害という東日本大震災の特徴的な災害の記述として、多用されていることも研究者としては誇りに思う。

関西大学 社会安全学部 河田

「滅災」哲學の発信

関西大学 社会安全学部長・教授 河田 恵昭

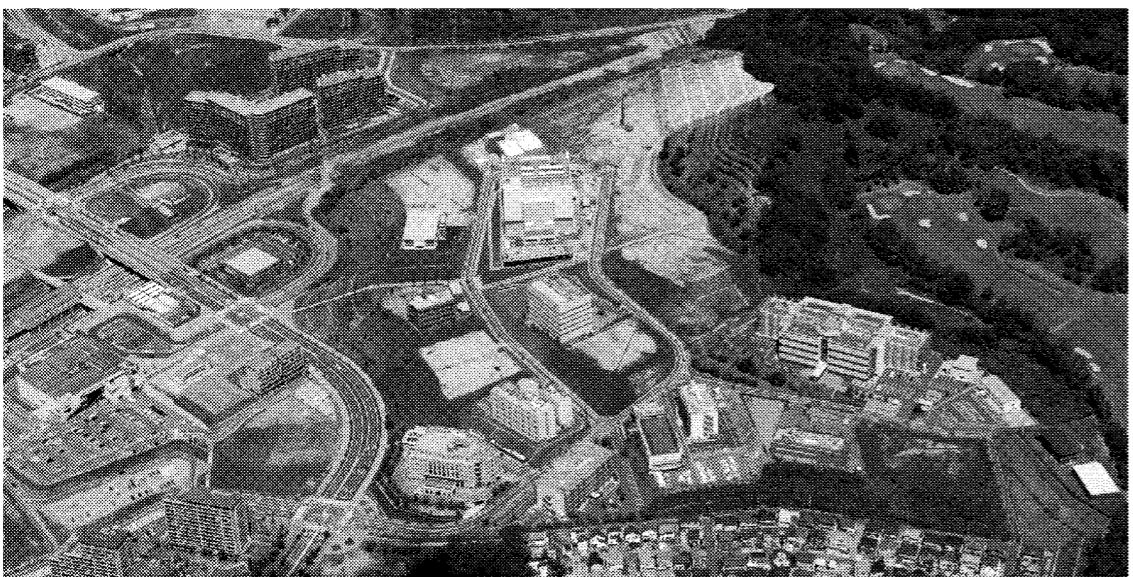
3月の東日本大震災によって、ひとたび大規模災害が起これば、被災地はもとより遠隔地であつても人々の生活およびそれを支える経済活動に著しい影響を受けることが思い知られました。大阪ブランドが発展し、復興に貢献するためには、これから起こりうる災害へ備え、被害を最小限に抑える努力が必要である。今回の特集の第二部では、東日本大震災復興構想会議委員であり、いち早く「減災」を提唱してきた河

みどりとみらいの
みえる丘

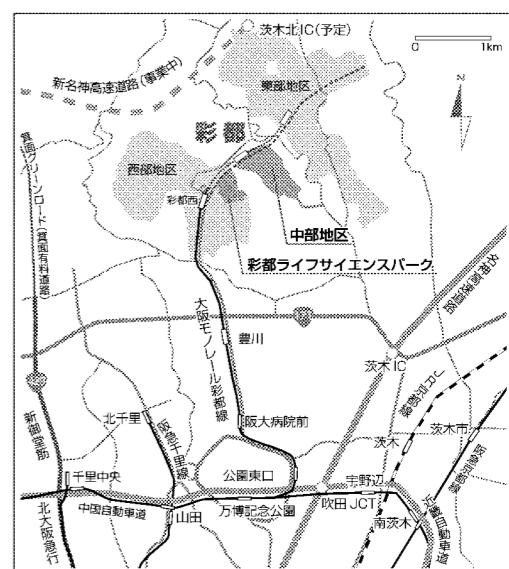
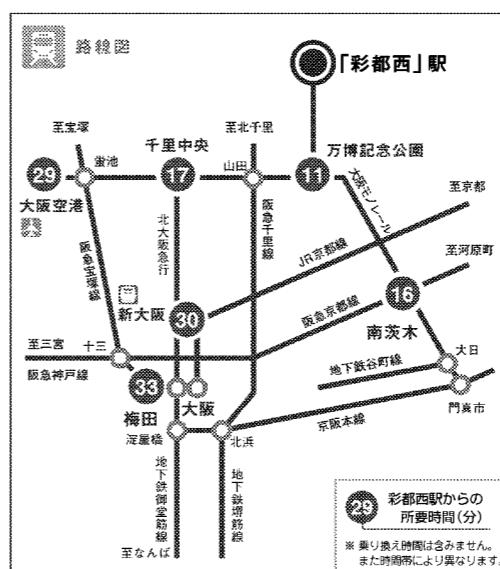
人にいい環境は、企業にもいい環境です！

駅前・徒歩圏の事業用地 彩都ライフサイエンスパーク

大阪・茨木



残りわずか **4** 区画



請求 資料 お問合せ

TEL: 06-6949-1201

URL  <http://www.saito-lsp.jp/>

国際文化公園都市株式会社 事業用地担当

〒540-0012 大阪市中央区谷町2-2-22 NSビル8階 E-mail : info@saito-kokubun.co.jp